

基準 10. 社会連携

10-1. 大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされていること。

(1) 10-1の事実の説明(現状)

10-1-① 大学施設の開放、公開講座、リフレッシュ教育など、大学が持っている物的・人的資源を社会に提供する努力がなされているか。

《歴史博物館》

本学の歴史博物館は、2000年3月に設置され、同年5月に京都府から博物館相当施設の指定を受け、同年11月に開館記念特別展『観る読む悟る 白隠 傑僧とその一門』によりスタートした。歴史博物館は、本学文学部史学科が中心となって行ってきた調査・研究活動によって蓄積された考古学、民俗学、歴史学、美術・禅文化に関する資料を広く公開し、大学教育及び市民の生涯学習に役立てることを目的としている。収蔵品の概要は、以下の通りである。

考古学部門：考古学部門では、本学考古学研究室が実施してきた発掘調査の出土資料を収蔵している。圧巻は、京都市内最大の前方後円墳である伏見区桃山町黄金塚2号墳(4世紀末)から出土した埴輪群である。このうち一本の盾形埴輪には、耳飾をしたシャーマンらしき人物の線刻画が描かれている。弥生・古墳時代の資料としては、他に滋賀県野洲町下々塚遺跡、同町富波遺跡、鳥取県三朝町丸山遺跡などの出土品がある。また、本学のキャンパスは、平安京右京二条三坊九・十・十五・十六町跡にあたっており、キャンパス内の発掘調査によって平安京関係の遺物が多量に出土している。

民俗学部門：民俗学部門では、奈良県大宇陀町の農村集落から収集した民俗資料を中心に収蔵している。その内容は、服飾・食事・農耕・山樵・手工・染織・諸職・狩猟・漁労・交通運搬・交易・社会生活・年中行事・信仰といった多分野にわたり、生活文化の諸相をほぼ網羅している。これらの資料をもとに、日常的で典型的な伝統的な生活文化の様子を展示している。

美術・禅文化部門：日本の禅林文化は、宗教のみならず広く文学・芸能・美術などの文化史全般に大きな影響を与えつつ展開してきた。なかでも近世以降の宗教美術で最も注目されるジャンルとして、禅林の絵画や墨蹟がある。これらは、そのユニークな造形とそこに秘められた精神性によって、国際的にも注目を集めてきた。近世を通じて禅林美術全体に強い影響力を持ちつづけた妙心寺派の傑僧白隠慧鶴の作品に始まり、現代まで連なる禅画や墨蹟の作品群を展示し、豊かな禅文化の一端を紹介している。

歴史学・典籍部門：この部門では、文学部史学科が中心となって収集してきた多数の文献資料(古文書など)を収蔵している。中でも重要なのは、石見国(島根県)の御家人であった俣賀家に伝来した「俣賀家文書」である。これは、嘉禎2年(1236年)から応仁2年(1468年)にいたる22点の文書からなり、地方武士の動向を知ることのできる中世文書として、極めて貴重な資料といえる。他には、近世から近代初頭いたる地方文書である「和泉国泉郡国分村文書」、近世の京都市中における行政文書である「京都町触」、近世の宮大工の一括史料として重要な「大工関係文書」がある。

これらの各部門の収蔵品は、常設展示室で展示している。一方、常設展示以外に、

独自の企画により特別展を実施している。特別展のうち、『観る読む悟る 白隠 傑僧とその一門』『森寛斎と森派の絵画 寛斎・祖仙・周峯・徹山・一鳳』については、同名の展示図録を発行し、両冊を合本してそこに「新収 十六羅漢図」を加えた『花園大学歴史博物館図録』も刊行済みである。また、『白隠 禅画と墨蹟』の展示図録も刊行した。

特別展の概要は、以下の通りである。

展示期間	テーマ	入館者数
2000.11.14～2000.12.9	特別展『観る読む悟る白隠 傑僧とその一門』	1,656
2001.4.4～2001.6.30	特別展『青春の日本映画 ポスターセレクション』	1,622
2001.10.9～2001.12.1	特別展『森寛斎と森派の絵画』	1,080
2002.4.3～2002.7.6	特別展『平安京再現 梶川敏夫氏原画による遺跡復元画展』	1,941
2002.10.28～2002.12.21	特別展『東海の名刹清見寺 朝鮮通信使と禅林美術』	1,510
2003.4.3～2003.6.7	特別展『今昔みやこ案内～都名所図会・平安通志・パノラマ地図の世界～』	2,456
2003.10.20～2003.12.17	特別展『新収 十六羅漢図』	1,744
2004.4.3～2004.6.12	特別展『洛中大火夢物語～風雲の幕末京都～』	2,488
2004.10.25～2004.11.27	特別展『白隠 禅画と墨蹟～新出・龍雲寺コレクション～』	1,479
2005.4.2～2005.6.25	特別展『羽織裏の粋(おしゃれ)』 山名邦和コレクション』	2,167
2005.11.7～2005.12.17	特別展『忝子庵の眼 日本画小品展』	1,191
2006.4.3～2006.6.24	特別展『箔の美 野口康作品展』	1,570

歴史博物館は、春期と秋期に常設展と特別展が同時に実施され、展示期間中の開館時間は、午前10時から午後4時までとなっている(土曜日は午後2時まで)。日曜・祝日は休館となる。入館料は無料である。入館者は、学内の学生もさることながら、展示の内容によっては、マスコミで取り上げられることも少なくなく、そうした場合には一般の入館者も増加する。また、生涯学習のグループなども定期的によく利用している。

《宗教部》

本学には、「臨済禅による禅的人間教育の実施」という建学の精神があり、この具現化のために、宗教部が設置されている。宗教部の活動は、本学学生を対象とするばかりでなく、一般市民にも開放されている。

具体的な活動としては、早朝坐禅会がある。早朝坐禅会は、大学開講期間中の毎朝7時55分から8時45分の間、本学の坐禅堂で開催されている。開催日数は、年間約120日程度で、参加者は年間の延べ人数で約800人程度である。この他に「禅、現代

に生きる」と題する臨済宗各派本山の管長や僧堂の師家による提唱と対話を教堂ホールで実施している。また、仏教シンポジウムの開催や右京区京北町教育委員会生涯学習課の協力を得た学長による十牛図の講義と坐禅を内容とする「学長特別講義」を実施した。

《心理カウンセリングセンター》

本学の心理カウンセリングセンターは、2006年2月に開設された。本センターは大学附属の相談機関であるため、対外的な心理相談業務と併せて、大学院に臨床心理士の養成課程が設置されている関係から大学院生の実践研修の場としても位置づけられている。

センターには、相談室とプレイルームが6室あり、この他に臨済禅の大学の特色として禅的心理療法を行うための和室や屋外砂場などが整備されている。

センター内での心理相談の対象は、具体的に例示すると以下のようなものである。

子どもに関する相談：すぐにキレル/暴力を振るう/落ち着きがない/学校に行けない

家族に関する相談：家庭環境がうまく作れない/子どもとうまく接することができない

対人関係について：すぐにけんかをしてしまう/友人が作れない

人生・生き方に関する相談：生きている意味がわからない/生きがいがない

職場に関する相談：仕事が続かない/会社に行きたくない

センターの開室時間は、月曜日から土曜日の間、9:30から17:00までとなっており、11:30から12:30が昼休みとなっている。なお、日曜日・祝日は休業である。

地域における活動は、公開講演会の開催、カウンセリング講座の実施、法人内の幼稚園への出張相談、中学高校における研修等がある。

(2) 10-1の自己評価

《歴史博物館》歴史博物館は、2000年の開館以来着実な展示活動を実施し、多くの入館者を迎えてきた。特に、本学の建学の精神に関連する禅の精神世界を表現した墨蹟等の特別展は、きわめて注目度の高いものである。

《宗教部》宗教部の諸活動は、「禅」をその活動の根幹とする極めて独自色の強いものである。中でも早朝坐禅会は、過去にNHK等の放送メディアからの取材もあり、社会的には注目度の高い活動である。

《心理カウンセリングセンター》2006年2月の開所以来のこの年の相談件数は48件、面接回数は、174回である。この面接回数をどう評価するかは、今後の推移も含めた長期的な視点からの検討が必要である。いずれにせよ、大学附属の相談機関として与えられた地域貢献という役割と臨床心理士を養成する実習機関としての役割を果たすためには、今後、本センターの利用者を着実に増やしていく必要がある。

(3) 10-1の改善・向上方策（将来計画）

《歴史博物館》歴史博物館の活動が充実していくためには、施設の整備とスタッフの充実が欠かせない課題となる。幸い、本学では現在、学科改組計画が推進されてお

り、その計画には、「文化遺産学科」新設計画が含まれている。この計画により、この分野の教員の充実が図られる予定である。また併せて、新校舎建設計画が進行しており、博物館実習室、収蔵庫、文化研究実習室、美術史学実習室等、新学科関連施設の充実も図られる予定であり、このことが今後の歴史博物館の活動の充実を側面から支えて行くこととなる。

《宗教部》早朝坐禅会の参加者は、1回当たりの人数としては平均5～6名であり、決して多いとはいえない状態であり、今後地域の商店街等へ積極的に働きかけ、少しでも地域の人々の参加が得られるよう工夫したい。

《心理カウンセリングセンター》本センター利用者の来談経緯は、開設記念講演会等に関する新聞や情報誌の「広告」によるものが多く、次いで「医療機関からの紹介」、「職場からの紹介」、「学校からの紹介」という外部機関からの紹介が多くなっている。センター開設にあたって、京都市内の医療機関や、従業員のメンタルヘルスに積極的な企業などとの連携、提携に力を入れてきたためと考えられる。それに比べて、「ホームページ」からの来談者は少ない。インターネットが普及した現代においてその効果は大きいと考えられるので、今後インターネットを利用した広報を積極的に実施して相談者の増加に努めたい。

10-2. 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されていること。

(1) 10-2の事実の説明(現状)

10-2-① 教育研究上において、企業や他大学との適切な関係が構築されているか。

本学は、「大学コンソーシアム京都」に参加し、他大学と適切な関係を構築している。毎年実施されている「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度には積極的に参加し、2007年度も次のような科目を提供している。テーマ「京都を探る」には、京都学美術編・京都学歴史編・新京都学総論。テーマ「いのちと人間を考える」には、坐禅入門・坐禅入門・人と文化 禅 等である。本学提供科目の「人と文化 禅」は、「大学コンソーシアム京都」の単位互換科目の中でも非常に根強い人気のある科目で、毎年百名を超える他大学の学生が受講している。

(2) 10-2の自己評価

教育研究活動における他大学との関係構築に関しては、京都には幸い「大学コンソーシアム京都」が組織されていることもあって、この組織を通じて他大学との適切な関係構築が出来ていると考えている。

(3) 10-2の改善・向上方策(将来計画)

教育研究活動における企業との関係については、本学の規模及び教育研究分野の関係もあって、困難な問題もあるが、心理カウンセリングセンターや国際禅学研究所の諸活動を通じて、その可能性を探って行きたい。

10-3. 大学と地域社会との協力関係が構築されていること。

(1) 10-3の事実の説明(現状)

10-3-① 大学と地域社会との協力関係が構築されているか。

本学は、京都市教育委員会と間で協定を締結して、学生ボランティアの派遣を実施している。これは、京都市立小学校・幼稚園等において本学の学生が教育活動の支援を行うもので、教育活動の活性化と学生自身の資質向上を目的として実施されているものである。本年度は、10名の学生が、京都市内の小学校で学習補助のボランティア活動に従事している。

また、災害支援ボランティアについては、つぎのようなものを実施した。

実施年・月	支援内容	派遣地域	参加学生数
2004年12月	新潟県中越地震災害支援	新潟県魚沼郡塩沢町	12名
2006年1月	除雪ボランティア	新潟県北魚沼郡河口町	24名
2007年4月	能登半島地震救援	石川県輪島市門前町	6名

なお、これらのボランティア活動は、本学の宗教部が窓口となって、学生に呼びかけ実施しているものである。

一方、心理カウンセリングセンターでは、文部科学省生涯学習政策局所管の社会教育団体(公益法人)である「倫理研究所・家庭倫理の会」から依頼により、京都倫理会館においてカウンセリング講座を実施している。その内容は、カウンセリングの知識のみならず実技も身につけられるよう講義と体験実習の両面を盛り込んだものとなっている。具体的には、「講義：カウンセリングとは何か 実習：様々な聴き方を体験する」や「講義：人間理解の方法・視点 実習：ロールプレイ」等である。この講座は、心理カウンセリングセンターの相談員が交代で担当している。

社会福祉学部社会福祉学科福祉介護コースでは、一般社会人を対象にした介護技術講習会を実施している。従来、介護福祉士国家試験は、筆記試験合格者が実技試験を受験し、これに合格した者に介護福祉士の資格が与えられていたが、平成17年度から介護技術講習制度が導入され、介護技術講習を受講(修了)した者は、実技試験が免除されることとなった。この講習会は、厚生労働大臣に実施予定を届出た介護福祉士養成施設(本学社会福祉学部社会福祉学科福祉介護コース)が実施することとなっている。

本学文学部では、「京都」を研究する地域学として京都学課程が開設されている。この課程は、歴史、文学、思想、文化などの諸方面から「古い歴史のまち」「生きているまち」である京都を総合的にとらえ、「今後の京都」をも視野に入れた学問体系となっている。この京都学課程開設の関係で、「花園大学京都学夏期公開講座」が毎年実施され、地域学「京都」が一般市民に提供されている。2006年度のプログラムは、講座テーマを「都の芸能」として、第1日：能「井筒」の解説と公演 第2日：狂言に関する講演と狂言「印幡堂」の公演 第3日：今様合と今様歌舞楽の公演と「神・芸能・民俗」と題する講演であった。

(2) 10-3の自己評価

本学では、宗教部が中心となって学生のボランティア活動を支援している。学生た

ちの具体的な活動は、京都市内の小学校での学習補助ボランティアや災害支援ボランティアである。また、心理カウンセリングセンターは、2006年2月に開設され、地域社会に開放された相談機関として、京都市内を中心に地域との協力関係が構築されている。

(3) 10-3の改善・向上方策（将来計画）

心理カウンセリングセンターの来談経緯のうち、「医療機関からの紹介」「職場からの紹介」というケースが3割程度ある。これは京都市内の医療機関や従業員のメンタルヘルスに積極的な企業との連携・提携によるものである。今後も地域社会との協力関係の構築という意味からも、心理カウンセリングセンター委員会等で地域社会の各機関等との連携・提携を積極的に進めていきたい。また、学生のボランティア活動の支援については、宗教部を中心に進められており、今後ともより積極的な学生への働きかけを行っていきたい。

〔基準10の自己評価〕

本学の社会連携活動は、歴史博物館の展示活動、宗教部の「禅」に関わる諸活動、心理カウンセリングセンターの相談活動、宗教部を中心に実施している学生ボランティア活動等、それぞれ顕著な特徴を持った活動によって、地域社会において一定の役割を果たしていると考えている。

〔基準10の改善・向上の方策（将来計画）〕

次年度からは、「文化遺産学科」や「創造表現学科」が新に開設される予定であり、これらの特色ある学科においても、今後新たな社会連携活動の可能性について、学科会議等で積極的に検討したい。